

総領事からのメッセージ(10月の活動報告)

2011年10月26日
在マイアミ日本総領事
川原 英一

フロリダ国際大学関係者との懇談

マイアミにあるフロリダ国際大学(FIU)は、州立大学の一つですが、毎年、学生数を増やすなど拡大路線を歩んでいます。同大学の学生総数は、現在の4万6千余名から、2020年には6万2万人へ拡大見込みであり、オンライン授業の導入計画も進んでいます。同大学ローゼンバーク理事長からお聞きした背景事情としては、全米で2千万人を超える大学生への教育並びに大学卒業後にもう一度大学に戻って勉強がしたい社会人教育という二つの側面があり、FIUの拡大路線は、こうした教育市場のニーズを充足していく必要があるとの考えによるものです。今年9月に入り、マイアミ市中心街ビルに新たにキャンパスを追加して、社会人向けの修士課程コースを開設しました。因みに日本では、大学生人口が年々減少し、各大学間での優秀な学生獲得競争が激しくなる状況があります。両国大学事情を比較した場合、興味深い事情があります。



右上写真は、同大学の国際・公共政策学群(SIPA)に所属する各教授を公邸へお招きした時のものです。SIPAは、FIUの8学部(政治・国際関係学部、日本語コースのある現代言語学部、公共政策学部、経済学部、歴史学部など)と16の研究センター(アジア研究、ラ米研究等)を抱えており、同大学の中で、独自の市場戦略を掲げて、地元の教育ニーズに対応しようとしています。各教授とのお話で、理工系やビジネス・経営学部、及び同修士クラスは、インド・中国などアジアの留学生が圧倒的多数を占めていることがわかりました。

FIUは、中国の要請を受けて、北京五輪開催前から天津大学、その後、青島大学と連携して、観光・ホスピタリティ学部を開設し、FIUの教授陣を派遣しています。フロリダ州政府予算からの支出が同大学運営の大きな割合を占めていますが、トルコ、サウディ等の中東各国政府からの資金援助も得ており、大学経営をビジネス・モデルとして、戦略的な教育事業の推進を目指しています。

10月5日の懇談では、米国内の主要課題は、「経済」と「社会保障」であること、先進国中、国民皆保険制度がないのは米国のみ、マイアミ・デート郡の社会保険未加入者人口比率は相対的に高い、などの指摘もありました。

ドル市長との懇談(10月19日)

10月19日、マイアミ国際空港の近くにあるドル市庁舎にベルムデス・ドル市長を訪ねて懇談を致しました。当方より、ベルムデス市長に対して、9月7日に当地で開催された米国南東部会主催の日本支援チャリティー行事に参加をして頂いたことに御礼を申し上げ、また、南

フロリダには、100万人を超えるキューバ系米国人がおり、米連邦議会議員や市長として大活躍をされている方が多く、ベルムデス市長も、そうした御活躍が注目されている方であると申し上げました。

同市長からは、①連邦両院議員の他、自分(市長)を含め、マイアミ市長等に多くのキューバ系米国人が活躍している、ドラルは、2003年に市政が敷かれ、現在までの8年間は自分が市長を努めている。②ドラルにある工業団地には、日本企業を始め、欧州及びアジア各国の



多数企業が集まっており、日本を含むアジア系住民数は市の全人口の6%である。市の人口は、4万6千人、凶悪犯等の発生件数は少なく、治安はマイアミ市に比べて格段に良い、また、毎春、PGAゴルフツアーがあり、多数ファンが全米から集まる。③9月に開通したマイアミ空港の新交通システム(MIA Mover)には、日本の進んだ交通システムが利用されていると承知する、マイアミ空港長が、日本の運行シス

テムの正確さを自分に強調していた、いったご指摘があり、「改善」という言葉に市長の強い関心があると述べておられました。

『デミングの経営哲学と日本の「改善」プログラム』

更に、同市長から、④第二次大戦後の日本において、品質向上と生産性向上のために統計学手法を利用した経営管理の普及に努めたウィリアム・デミング(William Deming)の活躍があったが、日本は、デミングの品質管理・生産性向上の考えと真剣に取り組み、その後、世界に冠たる高品質の日本製品の名声確立した、日本の「改善」制度を当市で導入したいとの考えを有する、と日本の品質管理システムについての賛辞がありました。

当方からは、フロリダで既に活動している日系企業工場をいくつか視察した際、生産現場の壁に、改善提案が多数取り上げられていたこと、生産現場からの品質改善・コスト削減提案を大切にする日系企業がフロリダに既にあることを申し上げました。

◆発展が期待されるマイアミ港

10月20日、マイアミ港湾当局(Port of Miami)を訪問して最近事情についての説明を受けました。2014年にパナマ運河の拡張工事が完了すると同運河を通過する貨物が、2.5倍から3倍程度増大すると予想され、マイアミ港のインフラ整備計画が進められています。マイアミ港はクルーズ船のターミナルとしても有名で、年間のマイアミからのクルーズ利用客数は440万人と世界最大です。

パナマ運河の拡張が終了した後を考えたマイアミ港のインフラ整備として、三つの事業を着工します。
①同港からの東北部米国向け貨物鉄道線整備、②同港から大型トラック専用のトンネルを建設して高速道路へ直結させ、貨物輸送時間の短縮及び市内道路の渋滞緩和、③港の水深を現在の42フィートから



50フィートまで浚渫(しゅんせつ)を行うことで、より大型コンテナ船利用に供する予定です。

同港で扱う貨物の地域別比率をみますと、中南米が55%、アジアが27%、欧州が18%となっており、やはり中南米へのゲートウェイと役目が大きいことがわかります。10月に入り、米国とコロンビア、パナマ、韓国とのFTAが議会で批准され、来年あたりから実施されることで、パナマ運河を利用した貨物が益々増えるのではないかと予想されます。ジョンソン・マイアミ港湾長によれば、マイアミ港とマイアミ国際空港が南フロリダの経済を支える2大エンジンであり、これら二つの港の関連事業で、500億ドル規模の経済効果があるとの話でした。

◆オペラ指揮者・声楽家の皆様との懇談(10月24日)

7年前にニューヨークからフロリダ州フォートローダーデール市に移り住み、全米各地でオペラ音楽指揮、声楽指導者として大活躍されているフランコ・ベルタッチさん(写真の左から2人目)などをお招きして、お話を伺いました。過去、ロンドン・香港・スイスなどでも音楽指導をされており、今回の懇談の直前には、ブルガリアで修士課程の学生への音楽指導を行い、フロリダへ戻られたばかりとのことでした。



さて、ベルタッチ先生のお話の中で特に興味深かったのは、①プッチーニは、日本音楽・日本文化をよく調べて、オペラに取り入れようと試み、その結果、異色作品として出来上がったのが、「蝶々夫人」であること、当初、オペラ上演の際、音楽に合わせた人物の動きなどについてのかかなり細かい指示があったはずだが、時代の変遷の中で失われてしまっている。当初のプッチーニが思い描いた内容との間の狭間を埋めるための創造的思考が大切となる、②モーツァルトの曲は、人間の頭脳に良い影響があることは知られている、常日頃からモーツァルトの音楽を聴いている人の知能指数は、普通の人の場合より30ポイントほど高いとの報告がある、とのことでした。(当方の質問に対し)③米連邦政府から全米のオペラ公演団体への補助金の現状は、大手の団体向けが中心であり、未来を背負う実力ある若手の育成へ向けた投資が必要である、他方、資金不足から若手育成が難しく、こうした状況を憂える声が米国内で高まりつつあり、今後に期待したい、との御指摘がありました。ベルタッチさんに師事して声楽の勉強をされている河野哲平さん(写真の右から3人目)は、ベルタッチ先生のお気に入りのお弟子さんであり、将来を大いに期待されています。(了)